（様式第８号）

事業報告書（平成 29 年度）

事業名　ＥＳＤによる持続可能な地域教育力育成コア事業

団体名　岡山市京山地区 ESD 推進協議会　　担当者名　柏崎　希

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

■春の環境てんけん■

日時：５月１３日（土）９：３０～１６：３０

場所：京山地区、

参加対象者：小学生から社会人まで、

人数：１４５名

内容等：地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したＥＳＤに取り組んだ。午前中に座主川と観音寺用水と岡山県総合グラウンドで、水辺の生き物と水質調査、大気・騒音調査を実施した。絵図町公会堂で昼食休憩後、午後は、京山ソーラーグリーンパークの遊歩道を通って京山山頂へ行き、大気調査と植物調査を実施した。下山後、京山公民館でまとめの話し合い（ふりかえり）を行った。今回も若者重点育成の視点からノートルダム清心女子大学の「人材育成論」の授業と連携したことから、多数の大学生が自主的主体的に関わってもらうことができた。

（様式第８号）

■夏の源流体験エコツアー■

日時：７月２２日（土）７：３０～１８：３０

場所：真庭郡新庄村

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：７０名

内容等：流域というつながりの中で、体験を通して原体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したＥＳＤに取り組んだ。新庄村では、朝鍋鷲ヶ山山頂で自然観察や環境調査をし、公民館で昼食（そうめん流しやおむすび等）をとった後、公民館近くの川で水辺体験やリバートレッキングを行った。新庄村の小学生もともに参加し交流を深めた。京山公民館まで戻り、締めの会を行い解散した。本会のＥＳＤのねらいである源流域の自然体験から環境意識を高める、世代間交流やコミュニケーション能力の向上、感動体験から気づきと探求心を高めるという点も成果を出せた。

■秋の環境てんけん■

日時：１０月２８日（土）９：３０～１６：３０

場所：京山地区

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：４２名

内容：春の環境てんけんと同様に、地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したＥＳＤに取り組んだ。午前中に主に観音寺用水で、水辺の生き物と水質調査および大気・騒音調査を実施した。絵図町公会堂で昼食休憩後、岡山県総合グラウンドで大気調査と植物調査を行った。最後に京山公民館でまとめの話し合い（ふりかえり）を行った。

（様式第８号）

■ＥＳＤサミット、ＥＳＤ・ＳＤＧｓ対話（ＥＳＤフェスティバル）■

日時：１月２７日（土）～２８日（日）

場所：京山公民館

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：２日間で延べ約１３００名

内容等：テーマを「Ｅ：えーものを　Ｓ：子孫の　Ｄ：代まで　かけよう虹を京山ＥＳＤから世界へ」とし、地域教育と人材育成に留意し、子どもから高齢者までが一緒になって学び合える場になるように行った。今回は、保育園と幼稚園の合同発表、園児のための大学生によるステージ「もったいないってどんなこと？」、大森市長・菅野教育長・槇野岡山大学学長・松畑中国学園大学学長・松田岡山経済同友会代表幹事・阿部岡山ＥＳＤ推進協議会会長・谷合農林水産副大臣などを囲んでの「京山ＥＳＤ・ＥＳＤｓ対話」、小中高生の発表、国際交流多文化共生プログラム「フレンドリーアジア」、避難訓練と防災学習、劇団公民館☆京山公演「つながるねがい京山編」、京山Ａ級グルメ昼食（フナ飯）、マルシェ、「京山みんなのカフェ」、フードドライブ、手作り体験と展示、昔遊びと伝統文化、食器リユース、地域の絆プロジェクトによる地域協働フォーラム「自転車先進都市おかやまをめざして」、「京山えーもの探険隊 part2～世代を超えてつながるために～」、ＥＳＤ学会、ＥＳＤ交流会、ＥＳＤ検定、全体会「京山ＥＳＤ・ＥＳＤｓ宣言 2018」など多彩なプログラムで開催した。

小中高生の発表では、伊島小学校、津島小学校、京山中学校、岡山工業高校、烏城高校、岡山一宮高校と数多くの学校からの発表があった。また、「京山ＥＳＤ・ＥＳＤｓ対話」では、食の問題やゴミ問題、防災問題などを、小中高生からの問題提議などを受けながら話し合った。限られた時間ではあったが、次世代を含めた岡山の主要なステークホルダーが一堂に会した対話の場として、大きな意義のある場を持つことができた。

■冬の源流体験エコツアー■

日時：２月３日（土）７：４５～１８：４０

場所：真庭郡新庄村

参加対象者：小学生から社会人まで

人数：６０名

内容：夏の源流体験エコツアーと同様に、流域というつながりの中で、体験を通して、原

（様式第８号）

体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したＥＳＤに取り組んだ。新庄村では、雪の中の野菜掘り、野外でのテーブル・椅子作りなど、みんなで協力して力を合わせることの大切さと楽しさを実感するプログラムを多く行った。このツアーでは、地元の小学生や大人も参加し、県北の文化や自然などの「本物体験」とともに、ＥＳＤらしく「関わり」や「つながり」を重視し、「共に生きる力」を高める活動に力を入れた。

２．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

ＥＳＤの視点としては、大きくは継続的に学社連携・全世代合同で地域の環境てんけんを行うことで、持続性を損なっている地域課題や変化に気づき、持続可能性向上や保全に主体的に取り組む市民を育てるということと、広い視野に立ち、流域というつながりの中で、地区外の源流域で日常にはない自然体験や生活体験ならびに上下流交流を通して、つながりを意識し、原体験やコミュニケーション能力（「生きる力」）などを育むという点を重視して行った。多世代間の学び合いの場を増やすとともに、特に中学生、高校生、大学生といった次代を担う若者達が主体的に参画する場を強化し、地域教育と人材育成のさらなる充実に努めた。

３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

参加者の多くが、この活動を通して、地域の中のいろいろな世代の人と学び合う中で、地域の問題を自分ごととととらえ、自分だけでなく地域のみんなと共に一緒に取り組んでいこうという意識が、より一層高まったように感じる。一連のＥＳＤ活動を通して、「（社会に）参画する力」「（社会の中で）共に生きる力」「（さまざまな世代や主体を）つなぐ力」を育み、地域教育力の向上と地域の絆の強化を目指してきたが、エコツアーやＥＳＤサミット（ＥＳＤフェスティバル）の参加者や企画者が年々多くなり、在住外国人など多様な人々の参画がすすみ、岡山工業高校、烏城高校、明誠学院高校といった高等学校とのつながり

（様式第８号）

がより深まったことは大きな成果である。ＥＳＤフェスティバルでは、「世代間でふれあう機会が多く地域の絆が深まった」「いろいろな世代が意見を言い合えるのがいい」「防災やまちづくりなどの有益な情報が得られた」などの感想があり、多世代にわたって京山の未来について語り合う場があることの意義を多くの人と共有でき、持続可能な地域づくりに向けての実行可能な具体的な提言や提案が出せるなど、当たり前に学びから行動へとつながるようになってきた。
４．今後の課題と展望
１３年間のＥＳＤ活動の継続・蓄積などにより、ＥＳＤ活動への参加者も増え、地域への浸透も進んできているが、現実的にはまだ地域社会を変革させるだけの広がりまでは至っていない。学社連携の気運は年々高まってきているが、まだそれぞれのカリキュラムへのすり合わせが十分とはいえないので、学校教育と社会教育、フォーマル教育とノンフォーマル教育とのすり合わせがよりうまく進むようにしていくこと、より切実な地域課題の掘り起こしや、地域での具体的な行動、ＥＳＤツーリズムなどの具体的な実践を行っていくこと、地域の企業やＮＰＯとの協働を強めていくといった課題があげられる。「（Ｅ）え一ものを（Ｓ）子孫の（Ｄ）代まで」のスローガンを広げ、京山地域の未来やビジョンを語り合い、地域の良いところを継続発展させ、地域課題の解決を目指していきたい。